

★ ハダニ類（豆類） 情報 ★

9月になっても高温の日が続いたことにより、京都府内の豆類のほ場ではハダニ類の発生が多くなっています。

黒大豆、アズキ等では今後の発生に注意してください。

1. 発生状況等

- (1) 9月中旬に行った巡回調査の結果、黒大豆のほ場におけるハダニ類の寄生株率は43.5%（平年比多い）、25小葉当たりの虫数は255.8匹（平年比多い）、発生ほ場率は87.5%（平年比やや多い）でした（表1）。
- (2) 9月中旬に行った巡回調査の結果、アズキのほ場におけるハダニ類の寄生株率は7.2%（平年比やや多い）、25小葉当たりの虫数は27.6匹（平年比やや多い）、発生ほ場率は60.0%（平年並）でした（表2）。
- (3) 向こう一か月の平均気温は高いと予想されており、今後もハダニ類の発生が増えるおそれがあります。

表1 黒大豆ほ場におけるハダニ類の発生状況
(調査日:令和2年9月11日、14日、15日)

項目	本年	平年値
寄生株率(%)	43.5	15.5
25小葉当たりの虫数(匹)	255.8	55.3
発生ほ場率(%)	87.5	56.3

*4地点8ほ場を調査。平年値は過去10年間の平均値。

表2 アズキほ場におけるハダニ類の発生状況
(調査日:令和2年9月11日、14日、16日)

項目	本年	平年値
寄生株率(%)	7.2	5.7
25小葉当たりの虫数(匹)	27.6	11.9
発生ほ場率(%)	60.0	48.9

*5地点10ほ場を調査。平年値は過去10年間の平均値。

2. 防除上の注意事項

- (1) 晴天で高温乾燥が続くと多発しやすくなる傾向にあります。
- (2) ほ場内やその周辺の雑草は、ハダニ類の発生源となるので除去してください。
- (3) 農薬は、葉の裏側に十分にかかるように散布してください。
- (4) ハダニ類は増殖が速く、高密度になりクモの巣状の糸で覆われてからでは防除効果が劣るので、初期防除に努めてください。
- (5) 合成ピレスロイド系農薬の連用は、ハダニ類が多発する恐れがあるので避けてください。
- (6) 薬剤感受性の低下を避けるため、作用機構分類コード（IRACコード）を参照し、異なる系統の農薬をローテーション散布してください。
- (7) ハダニ類の多発した栽培ほ場では、いったん発生量が減少しても、ほ場の乾燥条件が続くと再び発生が増加する可能性があるため、今後の発生に注意してください。
- (8) 農薬を使用する際は、使用基準を厳守してください。